

### 白石版地方創生総合戦略について

保科 善一郎



〔質問〕本市は、高速道路や新幹線など立地条件の優位性を有しており、「道の駅」や「スマートインター」等は、地域を活性化する有効な方策であると考え、が所見を伺う。

〔答弁〕【市長】第五次白石市総合計画で、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市」を目指している。「道の駅」や「スマートインター」はあれば良いと考えるが、どちらに優位性があるかも含めて考えていくことが地方創生であると考え。

〔質問〕国は地方創生に係る支援の一つとして人的支援を明言しているが、対応する考えはあるのか伺う。  
〔答弁〕【市長】副市長の派遣は聞いているが、

現在、経済産業省と職員との間で連絡を取り合いながら動いている。この総合戦略ができた時点で、必要な人的支援を要請する場合もある。

〔質問〕地方創生戦略の情報支援として、地域経済分析システム（REASAS）が国から配信されたが、その活用状況について伺う。

〔答弁〕【市長】現在、人口ビジョンや総合戦略策定に向けた将来人口推計等や庁内のプロジェクトチームでの事業検討時に活用している。

#### ◎市内小中学校の将来構想について

〔質問〕市内小中学校の児童・生徒数の減少を危惧し、検討委員会が設置され、文部科学省の適正規模を基準に、答申が示されたが、減

少の具体的な要因分析がされたのか伺う。

〔答弁〕【教育長】検討委員会では具体的には検討していない。しかし、数字的に見ると、昭和60年からの10年間で、越河・斎川地区の小・中学校に在籍した児童・生徒数は92名であるが、現在、地元には5分の1も残っていないのではと考える。

これは、子どもたちが大人になって地区に戻らなかったことが大きな要因であると考えられる。

〔質問〕父兄の声を聞くと、地域に児童館がなかったことも大きい。統廃合については、文部科学省の基準ではなく、白石独自の対応を取ることはできないのか伺う。

〔答弁〕【教育長】学校はできれば残したいと考え検討してきたが、複式学級は避けなければならぬというのが、教育委員会としての方針である。

### 小中学生の校内校外生活について

四竈 英夫



〔質問〕長期の夏休みで学校生活から離れることにより、思わぬ事故や事件に遭遇することがある。

夏休み期間中、水の事故や交通事故、その他の事件・事故はなかったのか伺う。

〔答弁〕【教育長】教育委員会や学校等でパトロールをした結果、事件・事故はなかった。

〔質問〕中学生が深夜・早朝に徘徊し、事件に巻き込まれた悲惨なニュースがあったが、徘徊などをさせないため、どのような指導をしているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】深夜徘徊は虐待行為であることから、学校等で厳しく指導している。

県の青少年保護条例でも、午後11時から午前4時まで、青少年を外出させてはいけないと規定している。

〔質問〕携帯電話やスマートフォンなどの普及により、有料サイトへの過剰アクセス等、金銭的な被害やトラブルはなかったのか伺う。

〔答弁〕【教育長】携帯やスマホは、トラブルが起きる可能性があるため、親の責任で契約してほしいと話している。学校からは、金銭的な被害やトラブルの報告はなかった。

〔質問〕勉強に影響を及ぼさないために、ゲームやテレビの時間について、どのような指導をしているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】「家庭の日」を設け、できるだけノーテレビ・ノーゲームデーの普及

に努めている。

◎学校におけるいじめ、不登校、ひきこもり等への対応について

〔質問〕東北6県では、過去6年間で自殺をした児童・生徒は154人上ることが報道された。本市では、いじめ・不登校・ひきこもりなどに對し、どのような配慮・気配り・目配りをしていくのか伺う。

〔答弁〕【教育長】学校では、月1回調査を行い、いじめ・不登校等について把握している。各学校では、早期発見・早期対策を心掛けていく。

〔質問〕そのような兆候などが感じられた場合、どのような対応をしているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】担任教諭のほか、学年主任・養護教諭・スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー等を含め、相談支援を複数で行う体制をとっている。

◎その他の質問  
【その他の質問】  
〔質問〕TPPに対する所見について